

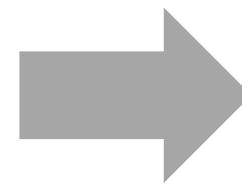
重大事故対策 – 想定外に対応するための方針、体制、手順書、教育・訓練 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.149、150、155

実際の事故時には予測できないようなことも起きる。そのような事態に備えるための方針や体制、手順書はどのように整備し、どのような教育・訓練を行うのか。



第24回ワーキング
(2023.7.6)、
第30回ワーキング
(2025.2.12)で議論

ワーキングチーム検証結果

想定外の事象に備え、原子炉の出力や水位、圧力の異常といった事故の徴候に対応する手順書を作成していること、また、監視機器等の故障を模擬した訓練や、事前に事故の内容を知らせない本番同様の訓練を実施していることなどを確認。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○想定外の事象に備えた手順書の整備

- 想定外の事象に備え、事故を特定した事象ベース手順書に加え、徴候ベース手順書やシビアアクシデント対応の手順書等を追加で整備。
- これらの手順書では、事故の内容を特定せず、事故時にプラントが陥る様々な状況（原子炉の出力異常、原子炉圧力の異常等）に応じた対応手段を定めている。
- 想定していない事故や想定外の事象が発生した場合であっても、その結果は上記のようなプラントの状況に帰結するため、この手順書を活用することにより、想定外の事態への対応が可能となる。

事象ベース手順書
(特定の事故に対応)

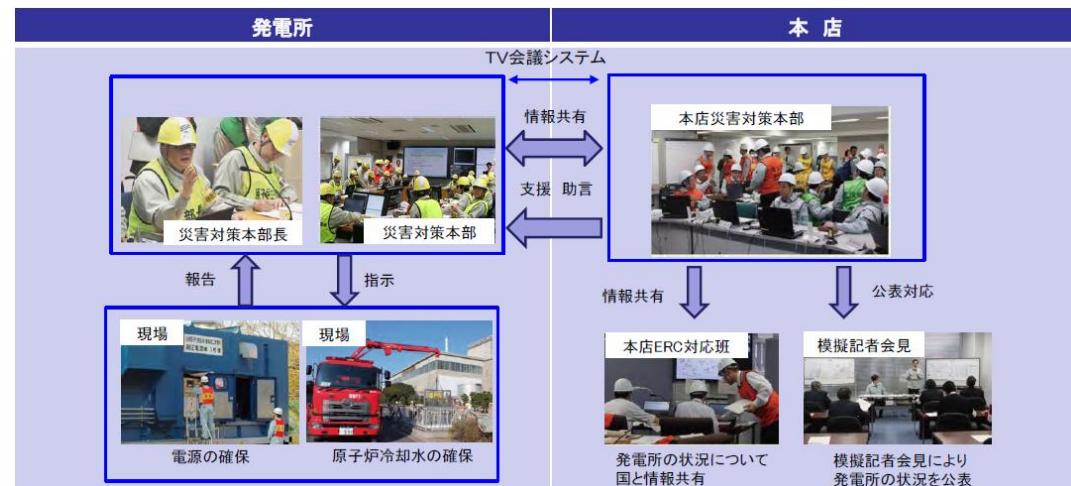


徴候ベース手順書
シビアアクシデント手順書
AM※設備別操作手順書
重大事故等対策要領
(プラント状態に応じた対応)

※AM：アクシデントマネジメント

○事故シナリオ非提示型での実践的な訓練

- プラントのシミュレータを使用した訓練において、監視計器の故障や機器の不動作等の故障を模擬し、事故時の判断能力や代替手段による復旧対応能力等を養成。
- 原子力防災訓練では、事故シナリオ非提示型での訓練を実施することで、徴候ベースによる対応能力の向上を図るなど、より実践的な訓練を実施



原子力防災訓練の様子